

# 子ども主催 「人狼ゲーム」

(生命尊重、協力、楽しみを創る)



▲的確な指示を進めていく、ゲームマスター。仕切りも上手で、台本準備も万端でした。  
参加者も協力的だったため、楽しみながら活動ができました。



## C協力できるクラス 本人に聞こえる 「いい噂話」をしてみよう

- 噂話は気になるもの。悪い噂ならなおさらです。では、いい噂ならば、どうでしょうか？
- 「〇〇さんのいい噂話をする」ということは、「〇〇さんのことを褒める」ということと同義。
- 「褒めて伸ばす」は、よく聞くけれど、中には褒めるのが苦手という人も。
- 「いい噂話」ってどうやればいいのか？

- やり方は簡単。
- 休み時間などの他愛もない雑談で、〇〇さんの良い所(長所)を話題にします。
- すると本人が聞きつけて、(だいたい悪い話だと思って)「何を噂してるんだよ」と詰め寄ってきます。
- そこで「みんな、〇〇さんのこと、褒めていたんだよ～」と伝えると、照れ臭いけど、悪い気持ちにはならない、そんな場面を作り出すことができます。

恥ずかしげもなく堂々と「褒める」  
ことに慣れておく。

『認め合う場は、特別な時間  
ではなく、日常の一コマなのだ』

D楽しいクラス

## 「発言した勇気を、絶対に無駄にさせない」

～手柄を認める授業づくり～

- クラスの発言が減っていく理由。
- それは「先生が子ども一人一人の発言に興味を持たないから」。
- あるいは「自分の欲しい発言(授業の流れに沿った発言)以外をスルーするから」、かも？
- 活発に意見が飛び交うクラスにしたかったら、**教室で発言したことを「恥」にさせない。むしろ「手柄」に。**

- トンチンカンな発言も「前向きだねえ～。そのチャレンジ精神は見習いたいね。」でOK。
- 本時で扱えなくても、次時で生かせるかも。
- そのために、どんな発言も板書に書き留めておく必要がある。(できれば名前入りで)
- 「ズレた発言」は問い直しをして、修正しつつ板書。それも無理なら、クラス全体に「今の意見、伝わった??」と問い返すことで保留にすることも。部分的であっても板書してあげるべき。

**相手の存在を認める。**  
(どんな意見であっても)  
「発言した甲斐があった」  
という経験は、その後の  
発言意欲につながる。